

経済情報：2024年7-9月期の 実質GDP成長率（1次速報値）

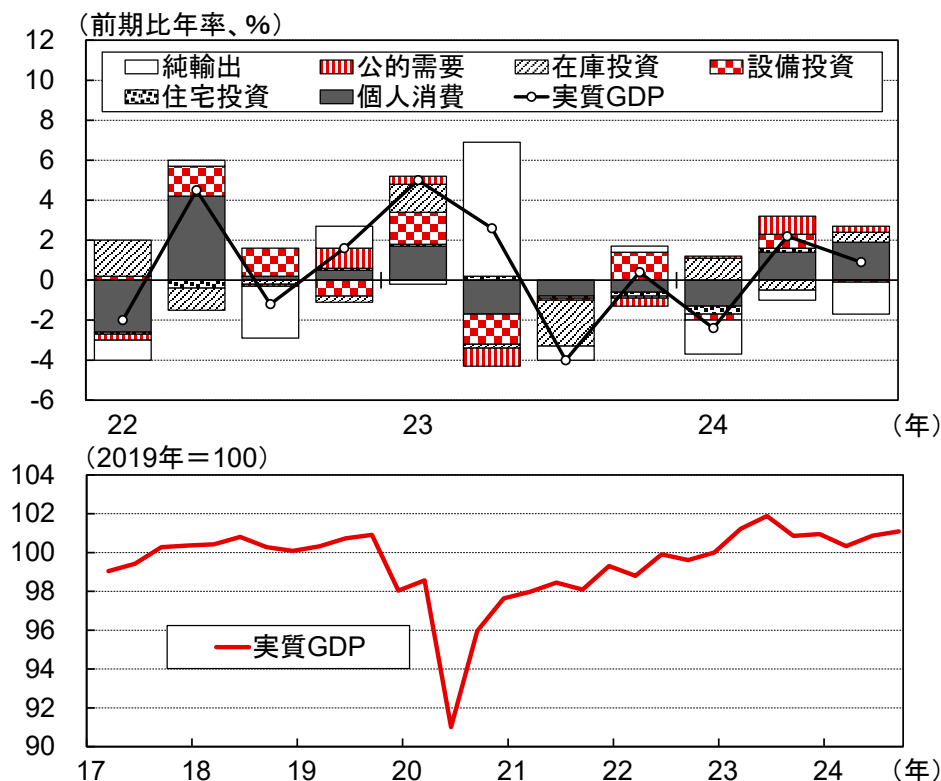
2024年11月15日

三菱UFJ銀行 経営企画部 経済調査室

1. 要旨

- 2024年7-9月期の実質GDP成長率(1次速報値)は前期比年率+0.9%と2四半期連続のプラス成長。一部自動車メーカーの認証不正による出荷停止の影響が解消されたほか、前期に賞与や定額減税により可処分所得が大きく増加していたことも、耐久財を中心に個人消費を押し上げたとみられる。
- 足元で再び進行している円安は消費者マインドの下押し要因となる一方、実質賃金の持ち直しに加えて、現在議論されている「年収の壁」の引き上げを始めとした各種政策が来年の消費を一定程度支えたとみる。また、日銀短観9月調査でも企業の高い設備投資意欲が引き続き示されていることから、先行き、景気は回復が続くと予想。

実質GDPと最終需要の推移



(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

四半期別実質GDPの推移(計数)

(前期比年率、%)

	2024年 1-3月期	2024年 4-6月期	2024年7-9月期(1次速報値)	(寄与度)
実質GDP	▲ 2.4	2.2	0.9	—
民間需要	▲ 1.1	2.4	3.0	(2.2)
個人消費	▲ 2.4	2.6	3.6	(1.9)
住宅投資	▲ 11.0	5.7	▲ 0.4	(▲ 0.0)
設備投資	▲ 1.6	3.8	▲ 0.7	(▲ 0.1)
在庫投資	(1.1)	(▲ 0.5)	—	(0.5)
公的需要	0.5	3.3	1.1	(0.3)
政府消費	1.3	0.3	2.0	(0.4)
公共投資	▲ 4.3	17.4	▲ 3.6	(▲ 0.2)
純輸出	(▲ 1.7)	(▲ 0.5)	—	(▲ 1.6)
輸出	▲ 16.8	10.7	1.5	(0.3)
輸入	▲ 9.4	12.2	8.5	(▲ 1.9)
GDPデフレーター(前期比)	0.4	1.2	0.3	—
名目GDP	▲ 1.0	7.0	2.1	—

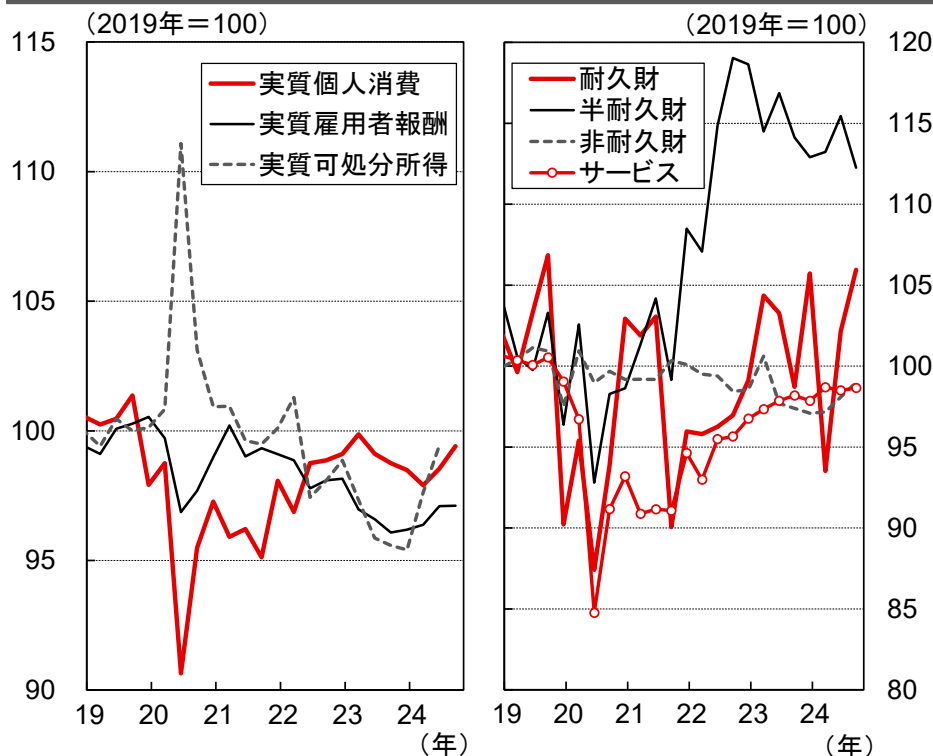
(注)カッコ内は、実質GDPの前期比年率伸び率に対する寄与度。

(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

2. 内需項目

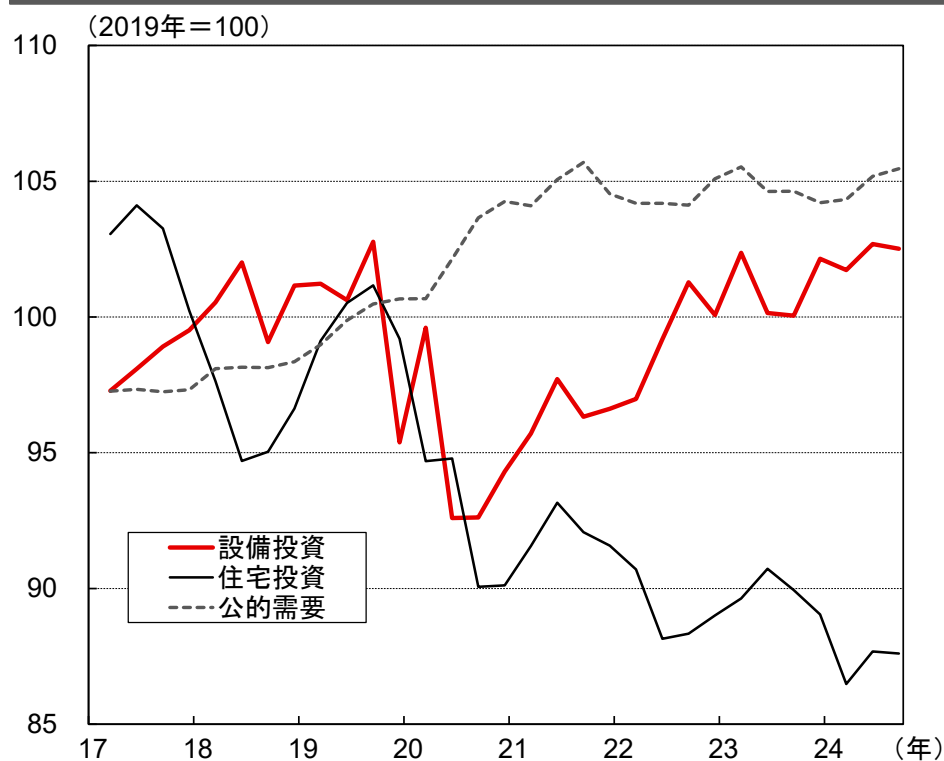
- 個人消費は前期比年率+3.6%と2四半期連続で増加。一部自動車メーカーの出荷停止の影響が解消されたほか、前期に賞与や定額減税により可処分所得が大きく増加していたことや猛暑が『耐久財』の押し上げに寄与したとみられる。
- 設備投資は同▲0.7%と2四半期ぶりに減少。
- 住宅投資は同▲0.4%と2四半期ぶりに減少。
- 公的需要は同+1.1%と、3四半期連続で増加。

実質個人消費・所得、財・サービス別実質個人消費の推移



(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

その他の内需項目の推移



(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

3. 外需項目

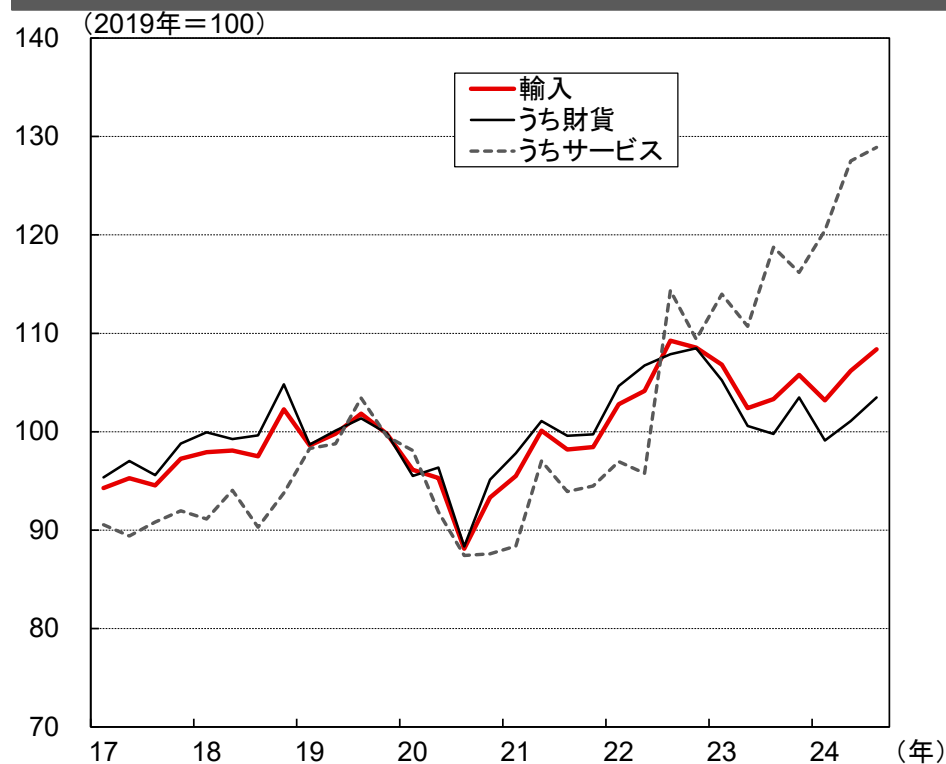
- 輸出は前期比年率+1.5%と2四半期連続で増加。半導体市況が堅調に推移するなか、IT関連財輸出が増加したとみられる。
- 輸入も同+8.5%と、2四半期連続で増加。
- 結果として、純輸出(輸出－輸入)の寄与度は同▲1.6%ポイントと3四半期連続でマイナス。

輸出(財・サービス別)の推移



(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

輸入(財・サービス別)の推移



(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。
ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できる
と思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性を保証するものではありません。
内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により
保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。

会社名：株式会社三菱UFJ銀行 経済調査室
〒100-8388 東京都千代田区丸の内1-4-5 三菱UFJ信託銀行本店ビル

照会先：矢吹 彩 e-mail: sai_yabuki@mufg.jp